

第2章 古代までの日本

1節 世界の古代文明と宗教のおこり

1	人類の出現と進化	
	内容	語句
1	今から700万前から600万年前にアフリカで誕生した最も古い人類。立って歩くことで大きな脳を支えられるようになり、自由に使えるようになった前あしで道具を使用していた。	猿人
2	自然の石を打ち欠いただけの石器。するどい刃をもつ	打製石器
3	今から200万年前にあらわれた人類。火を使って食物を調理したり寒さをしのいだ。言葉を使うようになった。	原人
4	今から20万年前にアフリカであらわれた、現在の人類の直接の祖先。	新人（ホモ・サピエンス）
5	約1万年前まで続いた、打製石器を使っていた時代。狩りや採集を行って移動しながら生活をおくっていた。	旧石器時代
6	土で作られた素焼きのうつわ。	土器
7	表面を磨いてつくられた石器。木を切ったり、加工したりしやすいように、使い道に応じてさまざまな石器がつけられた。	磨製石器
8	約1万年前から始まった、土器や磨製石器を使い、農耕や牧畜を始めた時代。	新石器時代
9	現在最も古い人類とされている。2001年アフリカのチャドで発見された。	サヘラントロプス・チャデンシス
10	約250万年前から約1万年前まで続いた、地球が寒冷化した時代。陸地の約3分の1が氷におおわれるような時期（氷期）と、比較的暖かい時期（間氷期）とが繰り返された。	氷河時代
11	今から約3万年前にあらわれた新人で、体つきは現在の人類。洞くつに壁画を残すなど、高い文化をもっていた。（ラスコーの壁画）	クロマニヨン人

2 古代文明のおこりと発展

1	銅とすすをまぜ合わせたもの。武器や神をまつる時の道具として用いられた。	青銅器
2	紀元前3000年ごろ、エジプトのナイル川流域でおこった文明。ピラミッドやスフィンクスがつけられた。	エジプト文明
3	地球が太陽を一周する時間を1年とした暦。エジプト文明でつけられた。	太陽暦
4	物の形をかたどってつけられた文字。代表的なものに、エジプトのヒエログリフや中国の甲骨文字がある。	象形文字
5	ヨーロッパから見て東の「太陽ののぼる土地」という意味。エジプト・メソポタミアを中心とする地域をさす。	オリエント
6	チグリス川とユーフラテス川のほとりでおこった文明。紀元前3000年ごろには国々（都市国家）が生まれた。	メソポタミア文明
7	メソポタミアのハンムラビ王が制定した、世界で最も古い法典。	ハンムラビ法典

8	メソポタミア文明で使われていた文字。	楔形文字
9	月の満ち欠けを基準にしてつくられた暦。メソポタミア文明で使われた。	太陰暦
10	紀元前2500年前にインダス川流域で栄えた文明。モヘンジョ・ダロなど計画的な都市が建設された。	インダス文明
11	インドで生まれた身分制度。インドに侵入したアーリヤ人が侵入し、神に仕える（バラモン）を最高身分とする制度を作った。	カースト制
12	インダス文明で使われていた象形文字。まだ解読されていない。	インダス文字

3 中国文明の発展

1	紀元前4000年より前に、黄河の中・下流域であわなどを、長江の下流域で稲を栽培する文明	中国文明
2	紀元前16世紀ごろ黄河流域におこった中国最後の王朝。優れた青銅器が使われた 訂正: ↑(最初)	殷
3	亀の甲や牛や鹿の骨に刻まれた文字。占いの結果を記すためにこの文字を使ったとされる。現在の漢字のもと。	甲骨文字
4	春秋・戦国時代の思想家。家族の道徳が社会の安定をさせる本であり、支配者は仁と礼を基本にした政治をするべきだとする儒学（儒教）を説いた。	孔子
5	紀元前3世紀に中国を統一して建てた大帝国。文字や長さや重さ、容積の基準、貨幣を統一した。	秦
6	中国を統一した秦の皇帝。北方の遊牧民の侵入を防ぐために万里の長城を築いた。	始皇帝
7	秦にかわって中国を統一した王朝。紀元前2世紀の武帝のときには、朝鮮半島に楽浪郡などを設け、中央アジアも支配下に入れて大帝国になった。	漢
8	中央アジアを通る古代の交通路。中国産の絹が、この道を通して西方の西アジアやヨーロッパにもたされたことからよばれる。	シルクロード (絹の道)
9	古くから黄河流域に住んでいた民族。現在中国の人口の90%以上をしめている。	漢民族
10	紀元前後に朝鮮半島北部からその北にかけての地域に成立した国。	高句麗

4 ギリシャ・ローマの文明

1	古代ギリシャで栄えた代表的な都市国家（ポリス）。男性の市民全員が参加する民会を中心に民主的な政治が行われていた。	アテネ
2	紀元前5世紀に全盛期をむかえた文化。演劇や彫刻などの芸術や、哲学や数学、医学といった学問も発達した。	ギリシャ文明
3	アテネのアクロポリスの丘の上に建つ、古代ギリシャの代表的な建築物。	パルテノン神殿
4	ギリシャを支配したマケドニアの王。東に遠征してペルシャを征服し、西はエジプトから東はインダス川におよぶ大帝国を築いた。	アレクサンドロス大王

5	アレクサンドロス大王の遠征をきっかけに、ギリシャ文化にオリエント文化が融合して生まれた文化。「ミロのビーナス」	ヘレニズム
6	イタリア半島の都市国家ローマが、紀元前30年に帝政をしいて成立した国。闘技場（コロッセオ）などの施設を造った。	ローマ帝国

5 宗教のおこりと三大宗教

1	インドで仏教を開いた人。人の一生は苦しみが多けれども、修行を積みば心の安らぎを得られるという教え。	シャカ（釈迦）
2	パレスチナに生まれたキリスト教を開いた人。人はみな罪を負っているけれども、神の愛を受けられることを教えた。	イエス
3	古代のイスラエルにおこった宗教。経典は「旧約聖書」で、キリスト教の母体となった。	ユダヤ教
4	6世紀のアラビア半島に生まれ、唯一の神アラーのお告げを受けた。神に絶対従うことや神の像を造って拜んではならないことを説いた。	ムハンマド
5	インドの宗教。バラモン教にインド各地の民間信仰を取り入れて確立した。	ヒンドゥー教

2節 日本列島の誕生と大陸との交流

1 日本列島の誕生と縄文文化

1	氷河時代に日本に住んでいた大型の象。名前の由来は日本に来ていた外国人教師。	ナウマン象
2	1946年に相沢忠洋が発見した群馬県にある遺跡。日本にも旧石器時代があることが明らかになった。	岩宿遺跡
3	1万2000年前から始まったとされる、打製石器に加えて磨製石器と土器が使われた時代。	縄文時代
4	縄文時代につくられた土器。厚手で、低温で焼かれ、表面には縄目の文様がつけられているものが多い。	縄文土器
5	人々が食べたあとの貝がらなどを捨てたゴミ捨て場。	貝塚
6	縄文時代から用いられた住居。地面をほったくぼみに柱を立てて屋根をかけていた。	たて穴住居
7	縄文時代につくられた土製の人形。女性をかたどったものが多く、魔よけや豊かさをいのるのに使われたと考えられている。	土偶
8	青森県にある、縄文時代の代表的な遺跡。5500年ほど前から1500年以上続き、最大で500人が住んでいたといわれている。	三内丸山遺跡

2 弥生文化と邪馬台国

1	収穫した米をたくわえるための弥生時代の倉。ねずみや湿気を防ぐために床を高くした。	高床倉庫
2	弥生時代につくられた土器。やや高温で焼かれたため赤褐色をした、薄手でかための土器。	弥生土器

3	弥生時代の磨製石器の一つ。半月やだ円の形の石器で稲の穂を摘み取るための道具。	石包丁
4	佐賀県にある弥生時代の代表的な遺跡。周囲には2重の深い壕と柵がめぐらされ、物見やぐらやたて穴住などの跡がある。	吉野ヶ里遺跡
5	静岡県にある弥生時代の遺跡。きれいに区画された水田跡や木製農具が発見され、弥生時代の稲作のようすが明らかになった。	登呂遺跡
6	江戸時代に福岡県志賀島で発見された金印に刻まれていた文字。	漢委奴国王
7	3世紀に日本にあった国。「魏志倭人伝」に記され、この国が30余りの小さな国々を従えていたことが書かれていた。	邪馬台国
8	「魏志倭人伝」に記されている(7)の女王。魏の都に使いを送り、皇帝から「親魏倭王」の称号と金印を授けられた。	卑弥呼
9	平たいつりがねの形をした弥生時代の青銅器。おもに祭りの道具として使われたとされる。	銅鐸

3 大王の時代

1	3世紀後半から7世紀まで、古墳がつくられていた時代。	古墳時代
2	大阪府堺にある代表的な前方後円墳。全長486m、前方部のはばは約300mで、世界でも最大級の墓。	大仙古墳
3	古墳の周りや頂上に置かれた素焼きの土製品。円筒型をしたもののほか、人物、動物、家屋をかたどったものがある。	埴輪(はにわ)
4	3世紀後半、奈良盆地を中心とする地域にあらわれた政権。王を中心に、近畿地方の有力な豪族で構成された。	大和政権
5	(4)の首長の称号。7世紀に「天皇」の称号が用いられるまで使われた。	大王
6	4世紀、朝鮮半島南西部に成立した国。7世紀半ばすぎに唐と(7)の連合軍にほろぼされた。	百濟
7	4世紀、朝鮮半島南東部に成立した国。7世紀半ばすぎに(6)と(8)をほろぼし、朝鮮半島を統一した。	新羅
8	小国が分立していた朝鮮半島南部の地域。(4)はこれらの国々と関係をもった。	伽耶(任那)
9	埼玉県にある古墳。鉄剣にワカタケル大王の名が刻まれており、(4)の支配が東日本にまで及んでいたことが分かった。	稲荷山古墳
10	熊本県にある古墳(9)から出土した鉄剣と同じ、ワカタケル大王と刻まれた鉄刀が見つかった。	江田船山古墳
11	朝鮮との交流の中で、半島から日本列島に、一族で移り住む人々。高温で焼く、かたく黒っぽい土器(須恵器)や鉄製の農具、絹織物を作る技術を伝えた。漢字や儒学、仏教も。	渡来人
12	大王(のちの天皇)を中心にした政府。	朝廷

3節 古代国家の歩みと東アジア世界

1 聖徳太子の政治改革

1	大和政権の有力な豪族。財政・外交を担当した。6世紀に稻目が大臣となり、大王家と親せき関係を結んで勢力を伸ばした。	蘇我氏
2	推古天皇の(3)。用明天皇の皇子(息子)で厩戸皇子とよばれる。仏教を深く信仰し、(9)などを建てた。	聖徳太子
3	天皇にかわって政治を行う役職。天皇が女性であったり、幼かったりするときには置かれることがある。	摂政
4	603年、聖徳太子が定めた役人の位の制度。かんむりの色などで地位を区別した。	冠位十二階
5	604年、聖徳太子が定めたきまり。仏教や儒学の考え方を取り入れ、天皇の命令に従うべきことなど、役人の心構えを示した。	十七条の憲法
6	6世紀の末に、中国を統一した王朝。律令をはじめ、中央集権的な政治のしくみを整え、強大な大帝国を形成した。	隋
7	聖徳太子に選ばれて、607年遣隋使として隋にわたった人物。「国書」を中国皇帝に提出したが、皇帝から「無礼な書である」と怒りをかった。	小野妹子
8	7世紀はじめごろ、都のあった飛鳥地方を中心に栄えた、仏教を中心とする文化。	飛鳥文化
9	7世紀はじめ、聖徳太子が奈良盆地北部に建てた寺。現存する世界最古の木造建築物。	法隆寺

2 大化の改新

1	隋を滅ぼして、中国を統一した王朝。都は長安。長安は、日本の平城京や平安京のモデルとなった。	唐
2	645年に(3)を行った中心人物。蘇我氏を倒し、新しい支配の仕組みを作る改革を進めた。後に天智天皇として即位する。	中大兄皇子
3	(2)と(4)らが蘇我氏をたおし始まった一連の政治改革。中国の政治制度にならって、天皇中心の国づくりをすすめた。	大化の改新
4	(2)とともに蘇我氏をたおして、新しい支配の仕組みを作る改革を進めた。	中臣鎌足
5	全ての土地と人を国家が直接支配すること。	公地・公民
6	663年、朝鮮半島での百済・日本連合軍と唐・新羅連合軍との戦い。日本は大軍を送ったが、唐・新羅連合軍に大敗した。	白村江の戦い
7	672年におこった、天智天皇の没後のあとつぎをめぐる大友王子と大海人皇子との戦い。大海人皇子が勝ち、天武天皇となった。	壬申の乱
8	694年、持統天皇が畝傍山・耳成山・香具山にかこまれた地につくった都。	藤原京

3 律令国家の成立と平城京

1	701年に制定された律令政治の基本となる法律。律は刑罰のきまり、令は政治を行ううえでのきまり。	大宝律令
---	---	------

2	律令に基づいて政治を行う国家。天皇と、天皇から高い位をあたえられて貴族となった、近畿地方の有力な豪族が中心になった運営された。	律令国家
3	710年、奈良盆地の北部に造られた都。	平城京
4	奈良に都が置かれてから、京都の平安京に都を移すまでの80年余りの時代。	奈良時代
5	奈良時代に日本でつくられた貨幣。	和同開珎
6	律令制のもとでの地方の行政区分。畿内（五畿）として、その他は、東海道、東山道、北陸道、山陰道、山陽道、南海道、西海道の七つに分けられた。	五畿七道
7	律令制のもと九州北部に置かれた役所。九州の行政、外交、軍事を担当した。	大宰府
8	724年、現在の宮城県に築かれた城。東北地方の政治・軍事に当たった。	多賀城

4 奈良時代の人々の暮らし

1	律令にもとづいて作成された人口台帳。戸ごとに戸主と家族の名、性別、年齢、税の負担の有無などが登録され、6年ごとに作成。	戸籍
2	(1) に登録された6歳以上の全ての人々には、性別や良民、賤民の身分に応じて口分田を与える、律令制のもとでの土地制度。	班田収授法
3	律令制のもとで、口分田の面積に応じてかけられる税。収穫量の3%の稲をおさめた。	租
4	律令制のもとで成人男子に課せられた税。絹・糸・布など地方の特産物をおさめさせた。	調
5	律令制のもとで成人男子に課せられた税。都での労役のかわりに、麻布をおさめさせた。	庸
6	日本を唐や新羅から守るために、九州北部に置かれた兵士。	防人
7	723年、開墾を奨励するために出された法令。新しく、開墾した者には、孫またはひ孫まで、私有を認めた。効果はあまりなかった。	三世一身法
8	743年に出された、新しく開墾した土地は、永久に土地を私有できるようにした法律。	墾田永年私財法
9	(8) をきっかけに貴族や寺社が広げた私有地のこと。	荘園

5 天平文化

1	7~9世紀にかけて、中国の唐に派遣された使節。唐の制度や文化を取り入れようとした。	遣唐使
2	奈良時代の天皇。仏教の力で国を守ろう考えた。	聖武天皇
3	奈良時代、(2)の時代に栄えた貴族の文化。仏教を中心とし、(1)を通じて唐や西アジアなどの影響を受けた国際色豊かな文化。	天平文化

4	奈良時代、(2)が全国の国分寺の中心として建立した寺。本尊は奈良の大仏として知られている。	東大寺
5	(4)の宝物をおさめた倉庫。(2)の遺品などが残されている。三角形の木材を組み合わせた校倉造が用いられている。	正倉院
6	奈良時代、諸国につくられた寺院。741年(2)は仏教の力で国を守ろうと、国ごとにこの寺院を作らせた。	国分寺・国分尼寺
7	奈良時代に民衆に仏教を広めた僧。(2)に大仏造立に協力を求められ、大僧正となって協力した。	行基
8	唐から来日した僧。日本からの僧の求めに応じて渡航を決心したが、5度の失敗ののち、754年に来日した。唐招提寺の建立。	鑑真
9	720年に完成した日本最古の国の正式な歴史書。中国の歴史書にならい、漢文で書かれている。	日本書紀
10	712年に完成した歴史書。神話や伝承、記録などを記録したもの。	古事記
11	奈良時代の地理書。地方の国ごとに、自然、産物、伝説などを記録した。	風土記
12	奈良時代後半につくられた、最も古い和歌集。天皇から農民・防人の歌までもおさめられている。	万葉集

6 平安京と東アジアの変化

1	平安京を開いた天皇。仏教勢力の影響をさけて、政治を立て直すため都を移した。	桓武天皇
2	794年から始まった、平安京に政治の中心があった時代。	平安時代
3	古代に東北地方に住み、朝廷の支配に従わなかった人々。	蝦夷
4	平安時代はじめごろの(3)の指導者。802年に坂上田村麻呂に降伏した。	アテルイ
5	平安時代初期に(3)平定のために置かれた臨時の官職。797年に任命された坂上田村麻呂が有名。	征夷大將軍
6	平安時代に、唐から帰国した空海が広めた仏教の宗派。和歌山県高野山にある金剛峯寺を総本山とした。	真言宗
7	平安時代に、唐から帰国した最澄が広めた仏教の宗派。滋賀県比叡山にある延暦寺を総本山とした。	天台宗
8	平安時代前期の学者・政治家。894年に遣唐使停止の意見書を提出し認められた。藤原氏のたくらみにより大宰府に左遷された。	菅原道真
9	10世紀の初めに唐がほろび、小国に分かれた後、中国を統一した王朝。	宋

7 摂関政治と文化の国風化

1	平安時代、藤原氏が摂政や関白となって実権をにぎった政治。	摂関政治
---	------------------------------	------

2	天皇を助けて政治にあたる役職。国司を任命する権限などの政治の実権をにぎるようになった。	関白
3	平安時代に栄えた貴族。4人の娘を天皇のきさきにし、生まれた子を次の天皇に立てて、朝廷で権力をふるった。	藤原道長
4	平安時代中ごろに発達した、日本の生活・風土にあった貴族文化。はなやかな貴族生活を背景にして成立した。	国風文化
5	平安時代に、漢字を変形してつくられた表音文字。平仮名と片仮名がある。	仮名文字
6	905年ごろに成立した最初の勅撰和歌集。醍醐天皇の命令で紀貫之らが編さんした。	古今和歌集
7	11世紀はじめに紫式部が書いた物語文学。藤原氏全盛期の貴族の世界をえがき、物語文学の最高傑作といわれている。	源氏物語
8	清少納言が書いた随筆集。宮廷での生活や自然についての感想をつづったもの。	枕草子
9	平安時代中ごろに発達した貴族の住宅様式。	寝殿造
10	藤原頼通が宇治に立てた阿弥陀堂。頼通がこの世に極楽浄土を表現しようと建てたもの。	平等院鳳凰堂
11	極楽浄土に生まれかわることを願う信仰。「南無阿弥陀仏」と念仏を唱えれば、死後に極楽浄土に生まれかわることができる。	浄土信仰

第3章 中世の日本

1節 武士の台頭と鎌倉幕府

1 武士の成長

1	もともとは弓矢や馬などの戦いの技術に優れた都の武官や地方の豪族たち。天皇の住まいや役所の警備、犯罪の取りしまりなどを担当するようになった。	武士
2	(1)の軍事的な集団。主人と家の子、郎党、下人との間には主従関係があり、さらに大武士団の主人を中心にまとまっていた。	武士団
3	10世紀なかごろ、北関東で反乱を起こした人物。みずからを新皇と称して関東8か国を支配したが、翌年に反乱はおさえられた。	平将門
4	11世紀後半に東北地方の武士どうしの争いをきっかけにした大きな戦乱。源氏が東日本に勢力を広げるきっかけになった。	前九年合戦
5	11世紀後半に東北地方の武士どうしの争いをきっかけにした大きな戦乱。(4)後に、源氏は東日本に確固たる地位を築いた。	後三年合戦
6	平安時代、平泉を拠点にした豪族。清衡、基衡、秀衡の3代100年にわたり、北方との交易で栄えた。	奥州藤原氏
7	荘園で、農民が領主に納めたもので、米や布・絹などが中心であった。耕作する土地の広さによって納める量が決められていた。	年貢
8	岩手県平泉町にある、中尊寺の阿弥陀堂。(6)が浄土へのあこがれからつくったもの。	中尊寺金色堂

2 武士の政権の成立

1	位をゆずった天皇を尊んでよぶ称号。	上皇
2	位をゆずった天皇が、(1)・法皇となったのちもの実権をにぎって政治を行うこと。	院政
3	平安時代中期の天皇。母が藤原氏出身ではなく親戚関係になかったため、藤原氏の摂関政治をおさえて自ら政治を行った。	後三条天皇
4	1156年、京都で起こった内乱。後白河天皇に味方した(5)と源義朝が勝利した。武士が中央に進出するきっかけとなった。	保元の乱
5	(4)(6)に勝利して勢力を広げ、太政大臣となり、武士としてはじめて政治の実権をにぎった武将。	平清盛
6	1159年、京都で起こった戦乱。(5)が源義朝を破って勢力を広げた。武士が政治の実権をにぎることになった。	平治の乱
7	寺院がかかえていた武装した僧。東大寺、延暦寺などの大寺院は、自分たちの要求を通すために朝廷におしかけた(強訴)。	僧兵
8	日本と宋との貿易。11世紀後半ごろから、宋の商船は九州で貿易を行っていたが、平清盛が兵庫の港を整備して、貿易はいっそう活発になった。	日宋貿易
9	鎌倉幕府の初代将軍。1192年に征夷大将軍に任じられて鎌倉に幕府を開いた。	源頼朝
10	(9)の弟。1185年に壇ノ浦で平氏を滅ぼした。その後、(9)と対立して奥州藤原氏を頼ったが、藤原泰衡に攻められた。	源義経
11	広島にある神社。古くから航海の守り神として敬われていたが、平清盛が信仰して一族の守り神としたことで繁栄した。	厳島神社

3 鎌倉幕府の成立と執権政治

1	源頼朝が鎌倉に開いた最初の武家政権。	鎌倉幕府
2	1185年、源頼朝が義経をとらえることを理由にして国ごとに置いた職。治安維持や警察などの仕事を行った。	守護
3	1185年、源頼朝が義経をとらえることを理由にして全国の荘園と公領に置いた職。年貢の徴収や納入、土地の管理などにあたった。	地頭
4	鎌倉時代、将軍と主従関係を結んだ武士。	御家人
5	(4)が、将軍から先祖より受けついで領地を保護されたり、新しく領地をもらったりすること。	御恩
6	将軍からの(5)にたいして、(4)は義務を果たすこと。戦いときには一族を率いて参加した。	奉公
7	鎌倉時代、将軍を助けて政治にあたった職。政所と侍所の長官をかねた幕府の最高実力者で、北条氏一族がこの役に付いた。	執権
8	鎌倉幕府の初代執権。	北条時政

9	1221年、後鳥羽上皇が朝廷の勢力回復を図って起こった乱。執権北条義時追討の兵をあげたが幕府の大軍に敗れた。	承久の乱
10	(9)ののち、鎌倉幕府が京都に置いた役所の長官。幕府への反抗の監視や京都警備などにあたった。	六波羅探題
11	1232年、北条泰時が定めた最初の武士の法律。51条からなる。武士社会の慣習などをもとにわかりやすい文章で制定された。	御成敗式目
12	源頼朝の妻。(8)の娘。(9)では、頼朝の御恩を説いて御家人の動揺をおさえ、幕府を勝利に導いた。	北条政子

4 武士と民衆の生活

1	荘園領主と地頭との争いを土地で分けることで解決する方法。	下地中分
2	馬や弓矢の武芸によって心身をこたえること。名誉を重視し、恥を嫌う態度や、武士らしい心構え。	弓馬の道
3	馬を走らせながら一定の間隔をおいて3か所に立てられた板の的を弓で射る武芸。笠懸、犬追物とともに武芸として広まった。	流鏑馬
4	同じ田畑で米と麦を交互につくること。	二毛作
5	寺社の門前や交通の便利な場所で、毎月決まった日に開かれる市。鎌倉時代は月3回開かれていたが、やがて6回になった。	定期市

5 鎌倉時代の文化と宗教

1	後鳥羽上皇の命令で藤原定家らによって編さんされた和歌集。藤原定家の和歌のほか、西行や鴨長明のものがのっている。	新古今和歌集
2	東大寺の正門。源平の争乱で焼かれたが、雄大で力強い宋の建築様式を取り入れて再建された。	東大寺南大門
3	(2)にある運慶・快慶がつくった像が有名。寺院の門の左右に安置されている守り神。	金剛力士像
4	武士の戦いを記した軍記物で、源平の争乱での武士の活躍をえがき、琵琶法師によって語り伝えられた。	平家物語
5	鎌倉時代末期、兼好法師(吉田兼好)があらわした随筆集。いきいきとした民衆の姿を取り上げました。	徒然草
6	法然が開いた、一心に「南無阿弥陀仏」と念仏を唱えれば、だれでも極楽浄土に生まれ変わると説いた。	浄土宗
7	親鸞が開いた、(6)の教えを発展させ、自分の罪を自覚した人(悪人)こそが、阿弥陀如来の救いの対象と説いた。	浄土真宗
8	一遍が開いた、一遍が弟子とともに日本全国をめぐり歩き、踊念仏によって教えを広めた。	時宗
9	日蓮が開いた、法華経の題目(南無妙法蓮華経)を唱えれば、人も国も救われると説いた。	日蓮宗
10	栄西、道元によって日本に伝えられた、座禅により自分の力でさとりを開こうとする仏教	禅宗

2節 東アジア世界との関わりと社会の変動

1 モンゴルの襲来と日本

1	13世紀の初め、チンギス・ハンがモンゴル民族を統一してつくった国。	モンゴル帝国
2	チンギス・ハンの孫で元の初代皇帝。都を大都に移し、国名を元と改め、中国全土を支配した。	フビライ・ハン
3	鎌倉幕府の8代執権。元に従うことを求める(2)の要求を断り、元寇では御家人を統率して元軍を退けた。	北条時宗
4	1274年、元が対馬、壱岐をおそった後に九州北部の博多湾岸に上陸した。元軍は集団戦法と火薬を使った武器で幕府軍を苦しめた。	文永の役
5	1281年に、再び日本に攻めてきたこと。幕府が海岸に築いた石の防壁や、御家人の活躍で、元軍は上陸ができなかった。	弘安の役
6	借金などの帳消しを命じる法令。鎌倉幕府が御家人の生活苦を救うために1297年に出した。	徳政令
7	近畿地方を中心に、荘園領主や幕府に従わず、年貢をうばう武士。	悪党
8	鎌倉幕府を倒し、建武の新政を行った天皇。1333年に楠木正成や(9)、新田義貞の協力で鎌倉幕府をたおした。	後醍醐天皇
9	室町幕府の初代将軍。鎌倉幕府の有力御家人だったが、(8)に味方して鎌倉幕府を滅ぼした。	足利尊氏

2 南北朝の動乱と室町幕府

1	鎌倉幕府をたおした後醍醐天皇が行った政治。武士の政治を否定し、貴族を重視する政策を採ったため武士の不満が高まった。	建武の新政
2	1336年に後醍醐天皇が吉野に移り、京都で新しい天皇を立てた足利尊氏と対立。約60年間にわたって北朝、南朝に分かれて争った時代。	南北朝時代
3	1338年に足利尊氏が開いた幕府。3代将軍(4)が、京都の室町に御所をおいたため、このようによばれる。	室町幕府
4	室町幕府の3代将軍。南北朝の統一を実現させた。朝廷の内部にも勢力を広げて太政大臣となって権力をにぎった。	足利義満
5	(3)で将軍の補佐役として置かれた役職。	管領
6	室町時代、お金の貸し付けなどを行っていた金融業者。	土倉・酒屋
7	一国を支配するようになった守護。国司の権限を吸収し、国内の武士をまとめ、独自の支配をするようになった。	守護大名
8	前の時代に幕府が置かれていた鎌倉に、地方機関として置かれた役所。足利一族が長官(鎌倉公方)となった。	鎌倉府
9	京都の二条にある、後醍醐天皇が政治を行った場所の目の前にかかげられた、政権への批判を記したもの。	二条河原の落書

3 東アジアとの交流

1	元をほろぼした漢民族が建てた中国の王朝。	明
2	西日本の武士や商人、漁民で、集団を作って貿易を強要し、船をおそい、大陸沿岸をあらす者。海賊。	倭寇
3	足利義満が始めた貿易。正式な貿易船に、明からあたえられた勘合という証明書を持たせ、朝貢の形をとった。	日明貿易 (勘合貿易)
4	朝鮮半島で、高麗をたおして朝鮮国を建てた人物。朝鮮ではハングルという文字を作るなど、独自の文化が発展した。	李成桂
5	14世紀に尚巴志が北山、中山、南山を統一して建てた国。首都は首里。中継貿易で栄えた。	琉球王国
6	北海道を中心とした地域に住む先住民。14世紀になると、津軽の十三湊を根拠地にした豪族と交易を行うようになった。	アイヌ民族
7	室町時代中頃の(6)の首長。蝦夷地の南部に進出してきた和人(日本人)に対して戦いを起こした。	コシャマイン

4 産業の発達と民衆の生活

1	商人や手工業者が作った団体。武士や貴族、寺社にお金などで税を納めて保護を受け、営業を独占する権利を認められた。	座
2	年貢をはじめ、多くの物資を馬の背にのせて運んだ運送業者。	馬借
3	交通の盛んなところで、物資の輸送や保管を行っていた運送業・倉庫業者。	問
4	室町時代の農村で、有力な農民を中心に村ごとにまとまり、つくられた自治組織。	惣
5	神にちかって一致団結して行動すること。僧兵や武士から広がり、農民にも広がっていった。	一揆
6	惣の農民が土倉や酒屋などをおそって借金の帳消しなどを求める(5)。	土一揆
7	京都の現八坂神社の祭礼。応仁の乱で中断されたが、町衆によって復興された。日本を代表する祭りとして現在まで続いている。	祇園祭
8	大阪湾岸にある都市。戦国時代、貿易の拠点として栄え、町人によって自治が行われた。	堺

5 応仁の乱と戦国大名

1	室町幕府8代将軍。	足利義政
2	1467年、(1)のあとつぎ問題をめぐって、有力な守護大名の細川氏と山名氏の対立から起こった戦乱。11年間続いた。	応仁の乱
3	1485年、山城南部で、武士と農民が一体となって起こした一揆。守護を追いはらって自治を行った。	山城国一揆

4	浄土真宗（一向宗）の信仰で結び付いた武士や農民たちが各地で起こした一揆。	一向一揆
5	実力のある者が、力をのばして上の身分の者に打ち勝つ風習。	下剋上
6	（2）後にあらわれた、領国を統一して支配した大名。近くの大名との戦争に備えて、強力な軍隊を作った。	戦国大名
7	大名の住む城を中心につくられた町。（6）が交通に便利な平地に城を築き、家来や商工業者を住ませたことで発達した。	城下町
8	（6）が領国を支配するために定めた法。武士や民衆の行動を取りしめ、領国を統一して支配する新しい政治を行った。	分国法
9	甲斐（山梨県）の（6）である、武田信玄が定めた（8）。けんか両成敗、許可なく他国へ手紙を送ることを禁止した。	甲州法度之次第
10	島根県にあった銀山。戦国時代には、多くの大名が銀山を手に入れるために争ったが、江戸時代になると幕府が直接支配した。	石見銀山

6 室町文化とその広がり

1	一定の作法で抹茶をたてて客にもてなすこと。8代将軍義政のころから静かな室内で茶を楽しむことが流行した。	茶の湯
2	観阿弥・世阿弥が発展させた、猿楽にほかの芸能の要素を取り入れて、芸術的に高められた演劇。	能
3	室町時代の初期、3代将軍足利義満の時代の文化。義満が京都に建てた金閣に代表される。	北山文化
4	15世紀後半、8代将軍足利義正の時代の文化。義政が京都に建てた銀閣に代表される。	東山文化。
5	室町時代に始まった、建築様式。寺院の部屋の様式を住居に取り入れて成立した。床の間が設けられ、書画や生け花がかざられた。	書院造
6	墨の濃淡でえがかれた絵。室町時代に最も栄え、雪舟によって日本風に大成された。	水墨画
7	石や砂を用いて山や水の流れなどの自然を表す庭園様式。おもに禅宗寺院の庭で用いられ、龍安寺の石庭が有名。	枯山水
8	（2）の合間に演じられた、こっけいなせりふ劇。民衆の生活や感情をよく表した。	狂言
9	室町時代につくられた絵入りの物語。「一寸法師」「浦島太郎」などがよく知られている。	御伽草子

第4章 近世の日本

1節 ヨーロッパ人との出会い

1] キリスト教世界とルネサンス

1	キリスト教の教派の一つ。東ヨーロッパのビザンツ帝国と結びついて、発展した。	正教会
2	ローマ教皇を最高首長とするキリスト教の組織。西ヨーロッパのキリスト教の中心。	カトリック教会

3	西アジアの地中海にある都市で、キリスト教・ユダヤ教・イスラム教の聖地。	エルサレム
4	(3) をイスラム教徒に占領されたことを受け、奪い返すために結成された遠征軍。	十字軍
5	14世紀、イタリアから西ヨーロッパに広がった、文化の動き。(4)の影響で、イスラム文化や古代ギリシャ・ローマ文化への関心が高まった。	ルネサンス (文芸復興)
6	(5) を代表するイタリアの芸術家。「モナ・リザ」「最後の晩餐」などが有名。	レオナルド・ダ・ビンチ
7	(5) を代表するイタリアの芸術家。「ダビデ像」「最後の審判」などが有名。	ミケランジェロ
8	教会や聖職者の腐敗に対して始まった、キリスト教のあり方を正そうとする運動。	宗教改革
9	(8) を始めた2人の人物。ローマ教皇が資金を集めるために免罪符を売りに出しているのをみて、抗議をした。	ルター カルバン
10	「抗議する者」という意味で、(2) ではなく聖書に信仰のよりどころをおいた。	プロテスタント
11	(8) に対抗して、(2) が改革を始めた、その中心組織。ザビエルが日本にキリスト教を伝えた。	イエズス会

2 ヨーロッパと外の世界

1	15世紀後半に始まった、ヨーロッパ諸国が新航路・新大陸を発見して世界の一体化が始まった時代。	大航海時代
2	こしょうなど、食物に香りや辛味をつけるための調味料。肉の保存・調理などに欠かせないもので、イスラム商人が仲介していたため高価であった。	香辛料
3	インド航路を開拓したポルトガルの航海者。ポルトガルを出航し、アフリカ南端の喜望峰を回ってインドに到達した。	バスコ・ダ・ガマ
4	1492年にカリブ海の島に到達し、そこをインドだと考えた人。	コロンブス
5	スペイン国王の援助で出航。世界一周を目指したが、途中で殺された。艦隊自体は世界一周を達成した。地球は球体であることが証明された。	マゼラン
6	ある国から移り住んだ者によって支配・開発され、原料の供給地や市場にさせられた地域。主権を奪う。	植民地
7	16世紀を中心に、行われた貿易。ヨーロッパ(武器・雑貨)→アフリカ(奴隷)→アメリカ大陸(銀・砂糖)→ヨーロッパ	三角貿易
8	17世紀はじめ、ヨーロッパ諸国がアジアとの貿易や植民地支配のために設立した会社。	東インド会社

3 ヨーロッパ人との出会い

1	1543年、種子島に流れ着いた中国人の船に乗っていたポルトガル人によって伝えられた武器。堺や国友で大量生産された。	鉄砲
2	1549年、日本にキリスト教を伝えたイエズス会の宣教師。	フランシスコ・ザビエル

3	16世紀なかごろから、平戸や長崎などで、ポルトガル人やスペイン人と行った貿易。輸入品は中国産絹織物が中心。	南蛮貿易
4	イエズス会が布教の成果を示すため、ローマ教皇のもとへ連れていった4人の少年使節。	天正遣欧少年使節

4 織田信長・豊臣秀吉による統一事業

1	駿河の今川義元を桶狭間の戦いで破って勢力を広げた、尾張の戦国大名。	織田信長
2	(1)が鉄砲を有効に使った戦法で、甲斐の武田勝頼を破った戦い。	長篠の戦い
3	(1)が安土城下で実施した、座を廃止し、自由な商工業の発展を図った政策。	楽市・楽座
4	1582年、信長を本能寺の変で敗死させた人物。	明智光秀
5	(4)をたおし、(1)の後継者争いに勝利して大阪城を築いた人物。関白・太政大臣となり、統一事業をすすめた。	豊臣秀吉
6	室町幕府が滅びた、1573年から、江戸幕府が開かれるまでの時代。	安土桃山時代
7	(5)が宣教師の国外追放を禁じた命令。しかし、南蛮貿易が盛んだったため、キリスト教徒は増加していった。	バテレン追放令

5 兵農分離と朝鮮侵略

1	全国の田畑の面積や土地のよしあしを調べ、予想される収穫量を全て石高で表した土地事業政策。	太閤検地
2	武力による一揆を防ぐため、農民や寺社から刀や弓、やり、鉄砲などの武器を取り上げた政策。	刀狩
3	武士と農民との身分の区別が明確になったこと。	兵農分離
4	1592年、豊臣秀吉が行った一度目の朝鮮侵略。約15万人の大軍を派遣した。李舜臣の水軍が日本の水軍を破った。	文禄の役
5	1597年、豊臣秀吉が行った二度目の朝鮮侵略。秀吉の死をきっかけに兵を引き上げた。	慶長の役
6	佐賀県でつくられる磁器。朝鮮侵略で連れてこられた陶工たちが始めた。	有田焼

6 桃山文化

1	16世紀後半から、信長・秀吉の時代を中心に栄えた文化。大名や大聖人たちの権力と富を背景に、力強く、はなやかな文化。	桃山文化
2	安土桃山時代の画家。安土城、大阪城などに、はなやかな障壁画を多く描いた。代表作「唐獅子図屏風」「洛中洛外図屏風」	狩野永徳
3	兵庫県にある城。美しい白壁から、白鷺城とも呼ばれ、5層の大天守と、三つの小天守が結ばれている。世界遺産にも登録されている。	姫路城

4	織田信長、豊臣秀吉に仕えた茶人。簡素な茶室で静かな心で茶を飲むわび茶を完成させた。	千利休
5	出雲の阿国が始めた踊り。江戸時代になり成年男子が演じるようになった。	かぶき踊り
6	ヨーロッパの文化から影響を受けて成立した芸術や流行の風俗のこと。天文学・医学・航海術などの新しい知識が伝えられた。	南蛮文化

2節 江戸幕府の成立と鎖国

1 江戸幕府の成立と支配の仕組み

1	1600年、徳川家康と石田三成との戦い。全国の大名も両軍に分かれて争ったので「天下分け目の戦い」ともよばれた。	関ヶ原の戦い
2	1614年、1615年の二度にわたって、徳川家康が豊臣氏をほろぼした戦い。	大阪の陣
3	江戸幕府が直接支配した土地。直接支配した領地のほか直属の家臣の領地を合わせると、全国のおよそ4分の1の石高をもった。	幕領
4	江戸時代、幕府と藩の力で全国の土地と民衆を支配する政治体制。	幕藩体制
5	将軍家の親戚の大名。尾張、紀伊、水戸は「御三家」とよばれて、重要な藩とされた。	親藩
6	関ヶ原の戦い以前から徳川氏に従っていた大名。	譜代大名
7	関ヶ原の戦い以後から徳川氏に従った大名。江戸から離れた藩に配置された。	外様大名
8	将軍直属の家臣。石高1万石以下で、将軍に会うことが許された者。江戸に住み、石高や才能に応じた役職についた。	旗本
9	江戸幕府が大名を統制するために定めた法律。大名が許可なく城を修理したり、大名どうしが縁組したりすることを禁止した。	武家諸法度
10	1635年、3代将軍徳川家光のときに定めた制度。大名は1年おきに領地と江戸とを往復することとなった。	参勤交代
11	1615年、天皇や公家の行動を制限し、政治上の力を持たせないための法令。	禁中並公家諸法度
12	江戸幕府で最も重要な役職。将軍に直属する最高職で、政治の運営にあたった。	老中

2 さまざまな身分と暮らし

1	江戸時代の身分制度のうち、農業を中心に漁業や林業などに従っていた人。全人口の約85%をしめ、生活は自給自足。	百姓
2	土地や屋敷をもち、年貢の負担を義務づけられた(1)	本百姓
3	土地をもたない(1)	水のみ百姓

4	江戸時代、村や町につくられた5~6戸を一組とした組織。犯罪の防止や年貢の納入に連帯責任を負わせた。	五人組
5	江戸時代に行われた農民同士の制裁。罪を犯したり、村内でのきまりごとを破ったりしたものやその家族に対し、村全体でつきあいを絶った。	村八分

3 貿易の振興から鎖国へ

1	徳川家康が西日本の大名や長崎などの商人に発行して、日本船の渡航を許した証書。	朱印状
2	(1) を持った船が貿易を行ったことで、多くの日本人が東南アジア各地へ移住し、主な港や都市に造った町。アユタヤなど	日本町
3	アユタヤの(2)の指導者。やがてシャムの役人になるが、政治の争いに巻き込まれて毒殺された。	山田長政
4	江戸幕府のキリスト教禁止令。1612年、幕領に出し、翌年には全国に及ぼした。	禁教令
5	長崎港に築かれた人工の島。1641年、オランダの商館が移され、鎖国下で唯一の窓口となった。	出島
6	1637年、九州地方で起こった農民の一揆。重い年貢とキリスト教の弾圧により一揆をおこした。大将は天草四郎。	島原・天草一揆
7	(6)の後、1639年に来航が禁じられたヨーロッパの国。	ポルトガル
8	キリスト教徒を発見するため、役人の前でキリスト像などをふませたこと。	絵踏
9	鎖国中、幕府から貿易を許されたヨーロッパの国。	オランダ
10	島原・天草一揆のあと、江戸幕府が寺に人々が仏教徒であることを証明させた制度。	宗門改

4 鎖国下の対外政策

1	17世紀半ば、明にかわって中国全土を支配した女真族が建国した国。	清
2	オランダ船が長崎に来航するたびに商館長が提出した、海外事情が書かれた報告書。幕府が海外事情を知る貴重な手がかりだった。	オランダ風説書
3	将軍の代わりごとなどに、派遣された朝鮮の使節。一行の中には一流の学者や芸術家もあり、各地で日本の学者と交流した。	朝鮮通信使
4	朝鮮との国交回復に努力し、朝鮮との貿易の独占を許された藩。	対馬藩
5	1609年に琉球王国を征服し、砂糖をおさめさせ大きな利益をあげた藩。	薩摩藩
6	琉球国王や将軍がかわるごとに琉球が江戸へ派遣した使節。	琉球使節
7	江戸時代、北海道南西部を支配した藩。幕府からアイヌの人々との貿易の独占権を認められ、大きな利益をあげた。	松前藩

8	17世紀後半、松前藩との不平等な交易に対し、反乱を起こしたアイヌ民族の首長。	シャクシャイン
---	--	---------

3節 産業の発達と幕府政治の動き

1 農業や諸産業の発達

1	年貢の収入を増やすために、用水路をつくったり、幕府や藩が海や沼地の干拓などを行って開発した土地。	新田
2	江戸時代、土を深く耕することができる農具として普及したもの。	備中ぐわ
3	江戸時代、脱穀が効率的にできるようになった農具。	千歯こき
4	幕府が各地の銭座で大量に造らせ、全国に流通させた銅貨。	寛永通宝
5	売ることを目的につくられる作物。綿、菜種、茶など。	商品作物
6	九十九里浜などでとれたいわしを加工し、綿の生産地などに売られた肥料。	干鰯
7	蝦夷地などで輸出品として作られた、いりこや干しあわび、ふかのひれなどの海産物。	俵物
8	江戸時代の選別農具。上から落下する米つぶと、もみがら・ゴミなどを分けた。	唐箕

2 交通路の整備と都市の繁栄

1	江戸の日本橋から箱根の関所を経て京都を結ぶ、五街道の中で最も発達した街道。	東海道
2	手紙や荷物を、走って届ける運送業者。	飛脚
3	江戸時代、大阪～江戸間の物資の輸送にあたった船。木綿・しょう油など生活物資を運んだ。	菱垣廻船
4	江戸時代、大阪～江戸間の物資の輸送にあたった船。おもに酒を運んだ。小型で速く、酒以外の荷物も運ぶようになり、(3)をしのぐようになった。	樽廻船
5	東北地方や北陸地方の年貢米を、日本海沿岸から瀬戸内海を通過して大阪まで運送した航路。	西廻り航路
6	江戸時代、諸藩が年貢米や特産物を販売するために設けた倉庫を備えた邸宅。	蔵屋敷
7	江戸時代の大阪をさす言葉。商業・金融の中心地。	天下の台所
8	幕府の許可を得て営業を独占した、問屋や仲買などの大商人の同業者組織。	株仲間
9	江戸時代の豪商2人。両替商を営み、大名にも貸し付けを行い、藩の財政にも関わった。	三井・鴻池

3 幕府政治の安定と元禄文化

1	江戸幕府の5代将軍。儒学を重んじて湯島に聖堂を建て、儒学の考えにもとづいて政治を行った。	徳川綱吉
2	5代将軍の(1)が奨励した、身分秩序を重視する儒学の一派。	朱子学
3	1685年、(1)が人々に慈悲の心を持たせるために出した、極端な動物愛護政策を定めた法令。	生類憐みの令
4	18世紀初めに「正徳の治」と呼ばれる政治を行った儒学者。朝鮮通信使の待遇の簡素化、貿易額の制限をおこなった。	新井白石
5	御三家である水戸藩の藩主。「大日本史」の編さんを命じた。のちに水戸黄門として親しまれた。	徳川光圀
6	5代将軍(1)の時代を中心に栄えた文化。上方を中心に発達し、都市の繁栄を背景に、経済力をもった町人がにない手となった。	元禄文化
7	心中など現実起こった事件を基に人形浄瑠璃の台本を書き、庶民の共感を呼んだ作家。	近松門左衛門
8	俳諧で新しい作風を生み出し、「奥の細道」などをまとめた人物。	松尾芭蕉
9	浮世草子の作家。武士や町人の生活を基に、小説にあらわした。	井原西鶴
10	大和絵に大胆な構図を取り入れた独自の新しい様式を生み出した。「風神雷神図屏風」	俵屋宗達
11	町人の風俗や役者・力士などを題材にしてえがかれ、菱川師宣によって大成された。	浮世絵
12	大和絵風のはなやかな装飾画を大成し、その画風は引きつがれて琳派とよばれた。「八橋蒔絵螺鈿硯箱」	尾形光琳

4 享保の改革と社会の変化

1	1716年から享保の改革を行った第8代将軍。享保の改革を行った。米の価格安定に力をそそいだので米将軍と呼ばれた。	徳川吉宗
2	参勤交代で大名が江戸にいる期間を短縮するかわりに、幕府に米を納めさせた制度。	上げ米の制
3	裁判の基準を示すために、(1)が定めた法律。それまでの慣習にたよっていた裁判制度を改めた。	公事方御定書
4	(1)が庶民の意見を聞き、それを政治に生かすために実施した制度。これによって小石川養生所の設置などが行われた。	目安箱
5	18世紀ごろ行われるようになった、商品を買集める問屋が農民に織機やお金を貸して布を織らせ、製品を安く買い取る生産方法。	問屋制家内工業
6	19世紀ごろ行われるようになった、工場を建設し、人をやとって分業で製品を作る仕組み。	工場制手工業 マニファクチュア
7	農村で人々が団結して、領主に年貢の軽減や不正を働く代官の交代などを要求した運動。	百姓一揆

8	都市に住む人々が、米の安売りなどを求めて米の買いしめをした商人などをおそった騒動。	打ちこわし
9	多くの人々が円形に署名した書状。一揆の中心人物をわからないようにするためといわれている。	からかさ連判状

5 田沼の政治と寛政の改革

1	1772年に老中となり、株仲間を奨励したり、長崎での貿易を活発にしたりした人物。いろいろがさかんになって政治が乱れた。	田沼意次
2	全国的な大さきん。浅間山の大噴火がきっかけとなり、全国的なさきんとなった。(1)の失脚を早めることとなった。	天明のさきん
3	1787年から老中になり、寛政の改革をすすめた。祖父にあたる徳川吉宗の政治を理想とした。	松平定信
4	江戸幕府の学問所。ここでは朱子学以外の講義は禁じられた。	昌平坂学問所
5	寛政の改革のころ、根室に来航して漂流民の大黒屋光太夫を送り届け、日本に通商を求めたロシアの使節。	ラクスマン
6	ロシアの使節。(5)が得た入港許可証をもって長崎に来航、通商を要求した。しかし拒否された。	レザノフ
7	江戸時代、特産物などの生産や販売を独占した制度。薩摩藩の佐藤が有名。	専売制
8	江戸時代、諸藩が発行した藩内だけで通用する独自の紙幣。	藩札

6 新しい学問と化政文化

1	日本古来の伝統を評価する「古事記伝」を著し、国学を大成した人物。	本居宣長
2	前野良沢とともにヨーロッパの解剖書を翻訳し、「解体新書」を出版した人物。	杉田玄白
3	全国の海岸線を測量し、正確な日本地図を作った人物。	伊能忠敬
4	「富嶽三十六景」などの風景画の優れた作品を残した浮世絵師。ゴッホなどヨーロッパの画家たちにも影響を与えた。	葛飾北斎
5	19世紀の初めに江戸を中心に栄えた町人文化。庶民をにない手として発展した。	化政文化
6	江戸時代にさかんになった、オランダ語によって研究された西洋の学問。8代将軍吉宗が漢訳洋書の輸入を許可したことが影響を与えた。	蘭学
7	江戸時代の浮世絵師。女性をえがく美人画の第一人者。「ポッピンを吹く女」	喜多川歌麿
8	江戸時代の俳人。自然の美しさを絵画的によんだ句を残した。	与謝蕪村
9	江戸時代、諸藩が設けた教育施設。18世紀に入って人材の育成などを目的に各藩で設立されるようになった。	藩校

10	町や農村で、庶民の子どもに読み・書き・そろばんなどを教えた施設。	寺子屋
11	大坂で適塾を開き、診療を行うとともに蘭学を教えて多くの人材を育てた。	緒方洪庵
12	オランダ商館の医師として来日したドイツ人。長崎郊外に診療所をかねた鳴滝塾をひらいて医学などを教えた。	シーボルト

7 外国船の出現と天保の改革

1	1808年、イギリス軍艦が長崎港に侵入した事件。オランダ商館員を捕らえて薪・水を要求して退去した。	フェートン号事件
2	1825年に、日本沿岸に近づく外国船の攻撃を命じた法令。	異国船打払令
3	1837年、アメリカ商船が砲撃された事件。日本人漂流民を送りながら来航したが、(2)によって砲撃された。	モリソン号事件
4	(3)を受けて、(2)を批判した渡辺崋山と高野長英らが幕府に処罰される事件。	蛸社の獄
5	天保のききんで苦しむ民衆を救済するために、大阪で反乱をおこした、幕府の元役人。	大塩平八郎
6	1841年から天保の改革を行った老中。幕府権力の回復をめざして改革を行ったが、人々の反感を受け2年余りで失脚した。	水野忠邦
7	1842年、幕府が出した外国船の取り扱い令。アヘン戦争の結果を知った幕府は、(2)を緩和して来航する外国船には燃料や食料を与えるようになった。	(天保の) 薪水給与令
8	幕末に藩政改革に成功して勢力を強化した藩。薩摩藩、長州藩、土佐藩など。政治に大きな発言力をもつようになった。	雄藩
9	燃料を燃やした熱を天井などに反射させて、その熱で金属をとかす仕組みの炉。	反射炉